

知り合う

なぜ私たちは、暗闇の中にいると本能的に感覚が鋭くなるのでしょうか。実際には何もないのに、不安や恐れを覚えることさえあります。主はこの感覚を用いて、私たちに福音を語られるのでしょうか。もしそうなら、なぜ、そして、どのように語られるのでしょうか。

聖句　ヨハネの手紙一 1:5-2:2（聖書協会共同訳）

声に出して読んでください：

5 私たちがイエスから聞いて、あなたがたに伝える知らせとは、神は光であり、神には闇が全くないということです。6 神と交わりを持っていると言いながら、闇の中を歩むなら、私たちは偽りを述べているのであり、真理を行ってはいません。7 しかし、神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます。8 自分に罪がないと言うなら、自らを欺いており、真理は私たちの内にありません。9 私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、あらゆる不正から清めてくださいます。10 罪を犯したことがないと言うなら、それは神を偽り者とすることであり、神の言葉は私たちの内にありません。2-1 私の子たちよ、これらのことを書くのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。たとえ罪を犯しても、私たちには御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます。2-2 この方こそ、私たちの罪、いや、私たちの罪だけではなく、全世界の罪のための宥めの献げ物です。

簡潔に内容をもう一度確認してください。どのような励ましや挑戦、慰めなどを与えられますか?

学び

今日の聖書箇所に基づいて、次の質問を一緒に考えましょう。

1. 5〜7節を読んでください。ヨハネは「神は光である」と語っています。もし私たちが神と友であると言いながら「暗闇の中を歩み続ける」なら、それは自分の罪を隠していることになります。では、私たちは誰から罪を隠しているのでしょうか。そして、なぜそれが問題なのでしょうか。（7節参照：「光の中を歩む」）

2. 8節と10節を読んでください。ある人たちは、自分が完全で罪がないかのように振る舞おうとします。8節によれば、「私は罪がない」と言うなら、私たちは誰をだましているのでしょうか。10節によれば、「私は罪を犯したことがない」と言うなら、それはイエスを偽り者にしてしまうことになります。では、このことは私たちが罪を告白するように、どのように動機づけるのでしょうか。

3. ２章1〜2節を読んでください。ヨハネは、私たちが罪を犯さないようにとこれを書いていますが、彼は私たちが時には罪を犯してしまうことも知っています。もし罪を犯してしまったとき、イエスは私たちの「弁護者」として立ち上がってくださいます。この役割において、イエスは私たちのために何を弁護してくださるのでしょうか。そして、この聖句によれば、誰に対して弁護してくださるのでしょうか。

4. 2節には、イエスが「贖い」（代価を支払ういけにえ）であると書かれています。では、イエスは何人のためにその代価を支払われたのでしょうか。そして、それがなぜ大切なのでしょうか。

分かち合い

話し合い　その1

多くの信者は、自分の罪を他の人に打ち明けて助けや回復を得ることにためらいを感じます。では、信者が回復を見いだし、このプロセスを始めるために罪を分かち合い、互いに助言を受けられるようにするには、どのように励ますことができるでしょうか。TBCでは、このようなケアを何と呼んでいるのでしょうか。そして、それはどこで行われるべきでしょうか。

話し合い　その2

武牧師は、子犬のトイレのしつけをたとえに用いました。大切なのは、子犬が完璧にしつけられているかどうかではなく、しつけの過程にあって、失敗から学んでいることであると語りました。では、福音はどのようにしてあなたを「しつけ」るのでしょうか。

具体的な祈りの課題を分かち合い、互いに仕え合いましょう。